

1 派遣期日 令和5年10月21日（土）

2 研修先 学校名 筑波大学附属小学校
所在地 東京都文京区大塚 3-29-1
<https://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp/>

3 研修内容

講座・公開授業・講演

テーマ 「子どもの学びを深める評価の在り方」
講演 「指導に活かす授業内での子どもの評価」

筑波大学附属小学校 夏坂 哲志 先生

(1) 公開講座1

- 第1学年 教科名 算数科 指導者 森本 隆史 先生
- 学習内容 単元名 「なかまをふやせるかな？」（形遊び）
- 本時の展開

- ① 学習課題をつかむ。
 - ・黒板に9この形を提示する。提示した形は、ある形をした色板2枚を組み合わせることでできるとを確認していた。
 - ・色板は、回したり、ひっくり返したりしてもよいことを確認した。

かたちをつくろう！
- ② 提示した9この形と、同じ形を作る。
 - ・色板を配付し、同じ形を作らせた。
 - ・できた形を全体で共有した。
- ③ 黒板に作った形を仲間分けする。
 - ・できた形の色に着目して、仲間分けをした。
 - ㊦ 3つに仲間分けできるよ。
 - ㊦ 1つだけ色がちがうよ。
 - ・それぞれの仲間は、どんなことが同じだと言えるか形の特徴を考えるよう発問した。
 - ㊦ 色の組み合わせが同じだね。
 - ㊦ このグループは、2つに折ったら重なるよ。
 - ㊦ このグループは、回したら同じ形になるよ。
- ④ 1つだけ色のちがう形の仲間を作る。
 - ・できた児童を、指名し黒板に提示させた。

- ① ある形の色板は表が黄色、裏がピンク色で作られていて、色板の裏返しが見えるように工夫されていた。これにより、児童は回す、裏返す、重ねるとぴったり重なるという概念を容易に理解することができていた。
- ② 黒板に提示した9この形を、ワークシートで児童に配付し、ワークシートの上に2枚の色板を重ねて同じ形になっているか、確認しながら活動できるようにしていた。
- ③ 表と裏で色を区別することで、形の仲間分けを視覚的に捉えやすくしていた。グループの特徴は対話的な活動から広がっていった。
- ④ 1つだけ色のちがう形の仲間を作る活動では、できた児童を指名し黒板に貼らせていた。たくさん児童に形を作ってもらうことで、かたちが1つではないことや③で作った形の線対称になっていることに気づいていた。
- ⑤ 児童の活動場面、教師と児童、児童と児童の対話が十分確保されていた。児童のつぶやきや発言から主体的な学びの姿が見られた。

(2) 公開講座2

- 第4学年 教科名 算数科 指導者 中田 寿幸 先生
- 学習内容 単元名 「面積」
- 本時の展開

① 学習課題をつかむ。

コピー用紙の半分の面積の図形を作りましょう。

- ・身近にあるコピー用紙の面積がぴったり半分になる形を作ることを確認した。

② コピー用紙を折って長方形の面積の半分になる形を作る。

- ・コピー用紙を配付し、実際に形を作らせた。
- ・できた形を全体で共有した。

③ 作った形が長方形の面積の半分になっていることを説明する。

- ㊦ この形は長方形だから、角は直角になる。
- ㊦ この形は長方形だから、2本の辺の長さは等しくなる。
- ㊦ 同じ長方形の対辺は2つあるから、その対角線は平行になる。

④ 共通する考えをまとめる。

- ㊦ 作った三角形は底辺と高さが等しくなる。
- ㊦ 三角形、平行四辺形、ひし形は面積の半分になっている。

- ① 児童の活動の場面がしっかりと確保されており、児童が主体的に取り組む姿が見られた。
- ② 長方形の面積の半分になる図形を、作り形を分類することで、図形の特徴を捉えやすくしていた。
- ③ 児童の説明の場面では、正方形や長方形の性質を用いて、説明することができていた。
- ④ どの児童も、教師や友達の話に耳を傾け、対話的な学びが充実していた。

(3) 講演「主体性の評価のしかた」 盛山 隆雄 先生

① 自主的と主体的の違い

- ・自主的・・・なすべきことが決まっていて、それらを自ら行う。
- ・主体的・・・行うことを自分で判断する。何をするのかを決める。

② 主体的の3つの分類

- ・課題設定、問題発見、自己調整に分類することができる。
- ・課題設定・・・児童がやりたいな、やってみたいなと思って取り組んでいること。
- ・問題発見・・・意味が分からなくて、知りたくなって質問したり解決しようとしていること。
- ・自己調整は・・・友達のことを聞いて、自分の考えを改善・修正していくこと。

③ 学習課題の設定

- ・子どもがオープンエンドの問題を設定することが大切。やってみたいなと感じるような課題設定。

④ 評価について

- ・評価基準を明確にする。学習の中で、どんな姿が見えたらA評価であるか、児童の様子をイメージしておくことが大切である。

4 感想

- ① 今回の公開授業はどちらも図形の領域であった。また、教科書にはない、中学年、高学年に繋がっていくようなオープンエンドの題材であったのが印象的であった。教師と児童の対話的なやりとりを通して、教師が児童のつぶやきを取りこぼさず拾う様子や丁寧に既習事項を確認する姿がとても参考になった。児童が形を操作したり、コピー用紙を折ったりする活動の場面が十分確保されていた。活動後の全体で考えを共有する場面では、児童が数学的な表現を用いて、説明ができるように、教師が児童の発言を上手に誘導していた。対話的な活動を通して、数学的な表現を用いて、根拠を明確にしながら表現することができたり、児童が進んでその表現を用いたりすることができるのだと感じた。また、1人1台端末を用いた授業の公開が増えてきている中、タブレットのようなICT機器を全く使わないアナログの授業であった。児童がいきいきと形やコピー用紙を操作しながら考える様子からアナログの良さも感じることもできた。
- ② 講演では、主体的に取り組む態度の評価の仕方について聞くことができた。自主的と主体的の違いや主体的に取り組むことの具体的な態度を知ることができた。また、その上で児童が主体的に取り組んでいる姿を明確にイメージすることが評価基準を考えることに繋がるということが分かった。主体的に取り組む態度は、テストでは測ることができないことであるため1時間の授業の中で主体性を育てられるような仕掛けや工夫をしていきたいと感じた。また、単元に1度、児童がやってみたいなと思えるようなオープンエンドの問題を取り入れていき、学習する楽しさを味わわせていきたい。今回の先進校視察で学んだことを、自らの授業や評価に役立てていく。